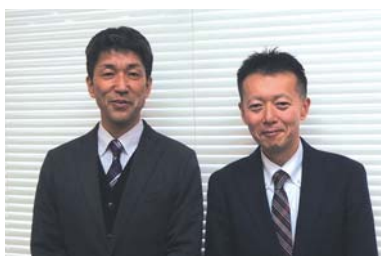


Career Scope

6年間のキャリア教育の中で効果的に配付する『Career Scope』

— 並木中等教育学校(茨城・県立) —

取材・文／永井ミカ



左から
学習進路部 進路指導主事
鮎川好夫先生
5年次主任
豊崎泰史先生

School Data	
創立	2008年／普通科
生徒数	949人(男子475人・女子474)
進路状況(2014年度)	卒業生114人中大学進学99人・短大進学1人・就職1人
茨城県つくば市並木	4-5-1
TEL	029-851-1346
URL	http://www.namiki-cs.ed.jp

6年間の進路関係行事

1年	<ul style="list-style-type: none"> 学習オリエンテーション 職業調べ 夏休みKK(課題解決)週間(学習会) 校外学習(職場見学等)
2年	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャー職業講話(年数回) 職業調べ 夏休みKK週間 校外学習(職場見学等)
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科についての進路ガイダンス 学部学科についての進路講演会 夏休みKK週間 マイフューチャーセミナー職業講話(3・4年) 筑波大学訪問(学部学科研究) 大学についての進路講演会 大学と入試についての進路ガイダンス 保護者向け進路講演会 海外大学進学説明会
4年	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路ガイダンス 教育実習生講話 大学出前授業(4・5年) 模擬試験・文理分け等についての進路講演会 夏課外 マイフューチャーセミナー職業講話(3・4年) 文理分け進路ガイダンス 保護者向け進路講演会 大学訪問・講義等(東大・一橋大・東工大) 大学入試についての進路ガイダンス 進路状況説明会(4・5年)・春課外
5年	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生講話 大学出前授業 難関大を目標とするための進路講演会 夏課外 オープンキャンパスへの各自参加(報告書提出) 科目選択進路ガイダンス 保護者向け進路講演会 大学別進路説明会 進路状況説明会(4・5年)
6年	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス 進路講演会 大学別入試問題研究講座 夏課外 オープンキャンパスへの各自参加(任意) センター試験出願説明会 センター試験受験説明会 センター試験自己採点 国公立2次出願検討 個別2次指導 推薦・AO・医学部受験生への面接指導

同校のキャリア教育を担当するのは「学習進路部」という分掌。出口の指導だけでなく、6年間のキャリア教育全体を統括する意味で「学習」という言葉が入っているという。母体校である並木高校時代は進路指導における学年独自のカラーが強かったが、現在、学習進路部には各年次主任が必ず所属。常に学校全体を意識しながら「6年間を通したキャリア教育」を企画・実践している。

2008年、茨城県初の公立中高一貫校として開校した並木中等教育学校。筑波大学や筑波宇宙センターなどが近接する立地で、スーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている。「進路実現を目指す学習と物事の本質を深く追求する体験のバランス」を教育方針として掲げ、体験学習や課題研究など、特徴ある取り組みを行っている。

学年の縦のつながりを重視してキャリア教育を推進

6年間を通して、校内外で社会人と接する機会が多いのは同校のキャリア教育の大きな特徴だ。「生徒が将来を考えるにあたって、たくさんのお出合いや機会を与えることが、キャリア教育の役割」と言うのは学習進路部主事の鮎川好夫先生。そのなかの二つ、3年次、4年次(中3、高1)の「マイフューチャーセミナー職業講話」では、PTAの協力のもと、さまざまな社会人が仕事について語る。並木高校時代から続くこの行事の効果をより高めるため、4年次の生徒に、講話の前に冊子『Career Scope(キャリア・スコープ)』を配付している。

社会への意識を高め文理選択の一助とする

「Career Scope」には、例えば「政策ができるまで」「チーム医療に取り組み」といったテーマのページがあり、どのような人たちがかわり、どのような流れで仕事が進むのかが紹介されている。職業ではなくプロジェクト単位で仕事を紹介しているのが特徴だ。生徒は印象に残った仕事を選んで感想を書いたり、付属のワークシートに取り組み。「活用法は年度やクラスによって異なりますが、必ず一度は読ませたい。社会に対する意識が高まり夢ももてる内容だと思えます」と言うのは年次主任の豊崎泰史先生。4年次の9月にこれを読んだあとで社会人講話を聞けば、より仕事に対しての理解が深まる。さらには、「文理選択と職業の結びつきを知るツールとしても役立つ」との判断から、その後の文理選択の一助にというねらいもある。

こういった流れを作り出せるのは、同校が常に6年間を意識し、効果的なタイミングを考えてキャリア教育を実施している結果。2013年度、第1期生が卒業したが、「進路を考える機会の積み重ねで意識が徐々に高まり、大学や学部選びに妥協しない姿が見られました」と鮎川先生は言う。「できるだけ早く目標をみつけ、将来の自分の姿を見据え進路実現に向かつてほしい。そのための刺激をどんどん受けてほしいと思います」。

こういった流れを作り出せるのは、同校が常に6年間を意識し、効果的なタイミングを考えてキャリア教育を実施している結果。2013年度、第1期生が卒業したが、「進路を考える機会の積み重ねで意識が徐々に高まり、大学や学部選びに妥協しない姿が見られました」と鮎川先生は言う。「できるだけ早く目標をみつけ、将来の自分の姿を見据え進路実現に向かつてほしい。そのための刺激をどんどん受けてほしいと思います」。